30 周年記念総会誌

徳島玉翠会

「高松城・艮櫓と琴電1200形」

2023 年（令和 5 年）度版

2023. 9. 23（土）開催

目　次

表紙題字：山下　俊文
表紙絵画：谷本　考司

ごあいさつ
［徳島玉翠会会長］長尾哲見…… 02
［玉翠会会長］　　間島賢治…… 03
［香川県立高松高等学校長］中筋功雄 …… 04
徳島玉翠会30周年総会案内 ・式次第 …… 05
2022年度会計報告［徳島玉翠会副会長兼会計担当］中村芳正 …… 06
主な活動報告、徳島玉翠会役員・事務局関係者名簿…… 07
≪特集≫ 総会誌発行と特別講演の歩み（第16回～第29回）
［徳島玉翠会副会長兼事務局長］坂口英則 …… 08
≪特集≫ 総会誌表紙と当時の思い出（第16回～第28回）
［徳島玉翠会事務局編集担当］邉見千香 …… 09
玉翠会だより
［東京玉翠会会長］渡辺　修…… 12
［関西玉翠会会長］樋口順一…… 13
［岡山玉翠会会長］多田譲治…… 14
［東海玉翠会会長］入倉憲二…… 15
［玉翠会副会長］　佐藤哲也…… 16
表紙絵画への寄稿
［高松高等学校美術部OB・OGグループ一期一絵代表］ 谷本考司…… 17
寄稿
［徳島玉翠会幹事］加藤弘道…… 19
［徳島玉翠会会員］岡本一磨…… 21
［徳島玉翠会監事］寺嶋吉保…… 22
［徳島玉翠会幹事］丸浦世造…… 23
徳島玉翠会会則　　［徳島玉翠会副会長兼事務局長］坂口英則 …… 26
令和4年度会費納入者［徳島玉翠会副会長兼会計担当］中村芳正 …… 27
編集後記　　［徳島玉翠会事務局編集担当］邉見千香…… 27

ごあいさつ

徳島玉翠会会長　長尾 哲見（昭和 44 年卒）

会員の皆様にはご清栄の事と存じます。

本年は母校創立130周年の佳節であり、また、徳島支部も平成5年（1993年）5月に母校の創立100年に併せ発足し、30周年の佳節を迎えました。

この間、会長も松浦健司氏、磯部淳一氏、渡邊謙氏、太田房雄氏を経て現在私で5代目ですが時の経つ速さを感じると共に玉翠会の活動を通して高松高校卒業の誇りと自覚を持ち、日々過ごせる事はうれしい限りです。

尚、支部が発足した1993年は10月には会員の圓藤寿穂氏が徳島県知事に初当選した年でもあり思い出深い年でもありました。

さて、コロナ禍でこの間リアルな総会が開催出来なかったのですがコロナも5類に移行した事から、今年は支部発足30周年の佳節を祝い、秋9月23日に徳島駅近くのザ・グランドパレス徳島で3年ぶりに会員が一堂に会して開催すべく役員一同鋭意準備に取り組んでおります。また、30周年の祝賀の意義を込めた記念誌の発刊や懇親会にしてまいりたいと考えております。

会員の皆様には是非ともご参加を頂き、コロナ禍でこの3年間希薄になった同窓の絆を今再び固く深く確認し合うと共に若い後輩たちの参加も強く呼びかけてまいりたいと思っております。

また、来年令和6年8月10日、JRホテルクレメント高松での高松高校創立130周年祝賀会にも徳島支部からも多数参加を呼びかけたいと思います。

最後に会員の皆様のご健勝と母校と玉翠会徳島支部の益々の発展を祈念してご挨拶とさせて頂きます。

ごあいさつ

玉翠会会長　間島 賢治（昭和 47 年卒）

徳島玉翠会は、母校の創立100周年に併せて平成5年5月に発足され、本年創立30周年を迎えられ誠におめでとうございます。新型コロナウイルスの影響も徐々に軽減され、3年振りに会員の皆様が一堂に会して総会、祝賀会等が開催されますことにお慶び申し上げます。また、徳島玉翠会の皆様におかれましては、日頃より玉翠会の運営に関して多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年3月3日に母校の卒業式が開催され、PTA会長として挨拶して以来、久し振りに参列させていただきました。新型コロナウイルスの影響を一番受けた学年ですが、卒業生の答辞では、伝統的にお世話になった諸先生方の紹介が非常に愉快で厳粛な中にも和やかな卒業式でした。

高松高校は、本年創立130周年を迎えることになります。9月の記念文化祭、10月の記念式典、先輩講演会、12月の記念第九演奏会等の開催が予定されています。玉翠会としての創立130周年事業は、記念誌発刊と祝賀会を計画しています。記念誌については、今回からデジタル版として玉翠会ホームページに10月末頃の掲載を予定しています。祝賀会については、新型コロナウイルスの影響も考慮して、来年8月10日開催に決定しました。従来の文化祭の頃からお盆の時期に変更して、県外の皆様も参加しやすい時期にしました。是非、高松に帰省いただき旧友との同窓会をお楽しみいただければ幸いです。その折には、香川県の発展に大きな影響を与える現在再開発中のサンポート高松もご見学ください。新県立体育館、徳島文理大学移転新キャンパス、高松駅ビル、インターナショナルホテルなどが、大阪・関西万博の開催2025年に合わせて完成予定です。

さて、過去創立100周年の折には、創立百周年記念玉翠会教育基金が設立されました。毎年、皆様からお振込みいただく年会費の中から200万円程度を同教育基金に繰り入れし、現役生徒にほぼ同額の奨学金を助成させていただいています。このことを知った先輩から、奨学金にと匿名でご寄付をいただき本当に感謝した次第です。微力ではございますが今後とも努力して参りたいと存じますので、これからも皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが徳島玉翠会が創立30周年を契機として益々のご発展と長尾会長様をはじめ会員皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

ごあいさつ

香川県立高松高等学校長　中筋 功雄（昭和 59 年卒）

錦秋の候、徳島玉翠会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育諸活動に対しまして並々ならぬご厚情を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、このたびは4年ぶりとなる徳島玉翠会の総会が対面で開催されますこと、誠におめでとうございます。コロナ禍にあって我慢をし続けた会員の皆様の思いを想像するに、今回の対面開催に向けた長尾会長様を始め役員の皆様のお喜びもひとしおかと存じます。まして今回が記念すべき第30回の総会とあればなおさらのことでしょう。30年の長きにわたり、会員の皆様が旧交を温めつつ新たな人間関係を積み重ね、母校高松高校の思い出や未来についての語らいを紡ぎ続けてこられたことに深く敬意を感じます。今春の入試結果では8名が徳島大学に進学しておりますので、新しい仲間として彼らの学生生活を陰に日向に支えていただければありがたく存じます。

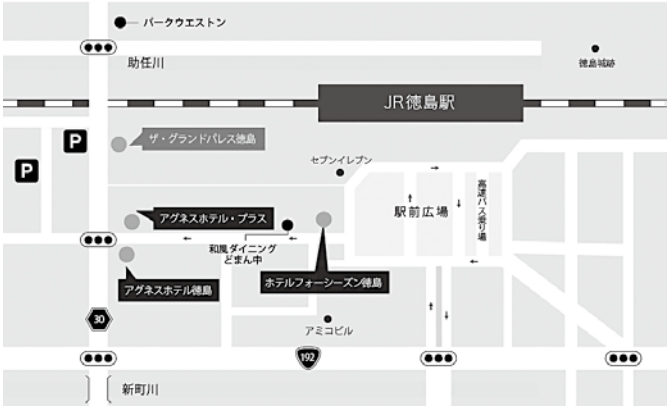
ところで、徳島玉翠会は本校の創立100周年を機に設立されたと伺っております。貴会が第30回の節目を迎えられたということで、同時に本校も創立130周年の節目の年を迎えており、いくつかの創立記念行事を予定しております。9月の記念文化祭では、昨年度制定したシンボルマークを活用するとともに玉翠庵も復活し、お客様の制限を設けない開催とすることで、大勢のお客様にお越しいただけるものと期待しています。10月末には創立記念式典を挙行いたしますが、今回の式典は体育館において教職員と生徒のみによる校内行事とさせていただきます。式典に引き続いては、恒例の先輩講演会を開催いたします。今回は記念行事の一環として池田豊人香川県知事を講師にお招きし、玉翠会の皆様や保護者にも公開するコロナ禍以前のスタイルでの開催といたします。12月の『第九演奏会』も記念特別演奏会として、オーストラリアからの高校生約50名との合同演奏会を企画中です。しかしながら、こちらは安全上の配慮から保護者限定での制限付き公開とさせていただく予定です。また、記念誌は今回も作成いたしますが、冊子としての発刊はせず、玉翠会のHP上での限定公開といたします。

これまで本校の創立記念行事は、玉翠会の強力なご支援をいただいて開催してきました。今回もその流れを踏襲しながら準備をしておりますが、時代の変遷とともに同窓会のあり様や創立記念事業にも変化が表れております。これは学校運営全般に言えることなのでしょうが、伝統の継承と時代に合わせた革新的な変化、換言すれば不易流行なる部分を見極めていく必要があります。玉翠会の皆様からのご期待やご要望を裏切らない安心感を醸しつつ、皆様を驚かせたり感心させたりできる新たな試みも創出していく所存ですので、今後ともご支援を賜れば幸いです。

最後になりましたが、本総会の盛会とご参会の皆様方のご健勝、徳島玉翠会の更なるご隆盛を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第30回 徳島玉翠会総会案内

日　時：令和5年9月23日（土）
　　13：00～16：00
会　場：ザ グランドパレス徳島
　　〒770-0831 徳島市寺島本町1-60-1
　　TEL：088-626-1111
　　FAX：088-626-4565
　　URL：http//www.gphotel.jp
　　Mail：mail@gphotel.jp



式　次　第

写真撮影（13：00～13：20）

総　　会（13：20～13：50）
　一、　開会の辞
　一、　徳島玉翠会会長あいさつ　長尾哲見（昭和44年卒）
　一、　総会議事
　　・2022年度（令和4年度）会計報告
　　・2022年度　監査報告
　　・2022年度　活動報告
　一、　その他
　一、　来賓紹介
　一、　閉会の辞

懇 親 会（13：50～16：00）
　一、　開会の辞
　一、　徳島玉翠会会長あいさつ　長尾哲見
　一、　来賓挨拶
　一、　乾杯
　一、　懇親
　一、　出席者1分間スピーチ
　一、　校歌斉唱
　一、　万歳三唱
　一、　閉会の辞

主な活動報告

年　月　日	内　　容	場　　所
2023年 3月 1日	第30回徳玉会役員会・総会準備委員会（第1回）	Jolly Roger
4月14日	2022年度会計監査（中村会計担当・寺嶋監事）	徳島市内喫茶店
7月22日	第30回徳玉会役員会・総会準備委員会（第2回）	Jolly Roger
8月 5日	第30回総会誌送付作業・総会準備委員会（第3回）	Hサンシャイン

徳島玉翠会役員・事務局関係

役員名簿

役　職	氏　名	卒　年	役　職	氏　名	卒　年
会　長	長尾哲見	昭和４４	副会長兼会計	中村芳正	昭和４２
副会長	香川典子	昭和４７	副会長兼事務局長	坂口英則	昭和４８
副会長	松原　淳	昭和６０	監　事	寺嶋吉保	昭和４８
幹　事	岡澤恵美子	昭和３５	幹　事	七條政志	昭和４３
幹　事	名尾和弘	昭和５０	幹　事	伊賀弘起	昭和５１
幹　事	丸浦世造	昭和５１	幹　事	塩見一義	昭和５３
幹　事	西良浩一	昭和５７	幹　事	加藤弘道	昭和５８
幹　事	佐々木園子	昭和５８	幹　事	中原大道	平成　６
幹　事	吉田守美子	平成　７	幹　事	山下一太	平成　８
幹　事	原口　陽	平成　９			

事務局名簿

事務局長	坂口英則	昭和４８	会計担当	中村芳正	昭和４２
編集担当	邉見千香	昭和４９	名簿担当	坂口英則	昭和４８
懇親会担当	松原　淳	昭和６０	HP担当	中原大道	平成　６

２０２３年度各玉翠会総会・懇親会のご案内

玉翠会名	事務局長	日　時	会　場
東海玉翠会	菅野正朗（50年卒）	5月20日（土）	名鉄グランドH
東京玉翠会	土田　充（53年卒）	7月 8日（土）16:00	オンライン
関西玉翠会	田島朋子（49年卒）	10月28日（土）	リーガロイヤルH大阪
岡山玉翠会	仁木　壯（46年卒）	11月19日（日）11:00	アークホテル岡山

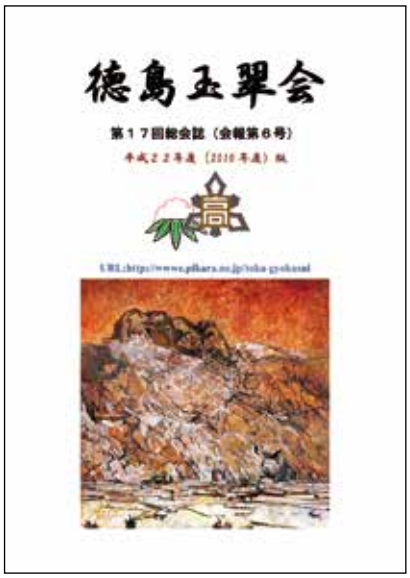
お問い合わせ・ご連絡は　事務局（連絡先は裏表紙に掲載）まで

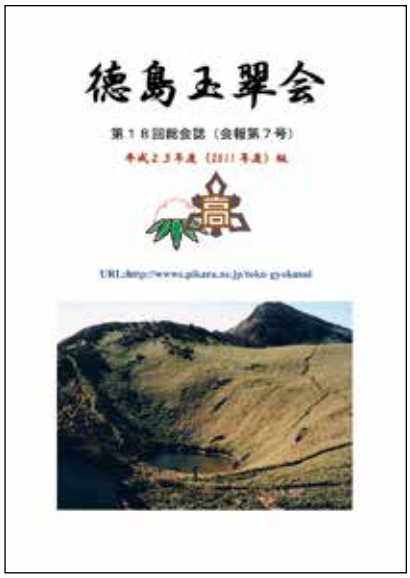
≪特集≫ 総会誌発行と特別講演の歩み（第 16 回～第 29 回）

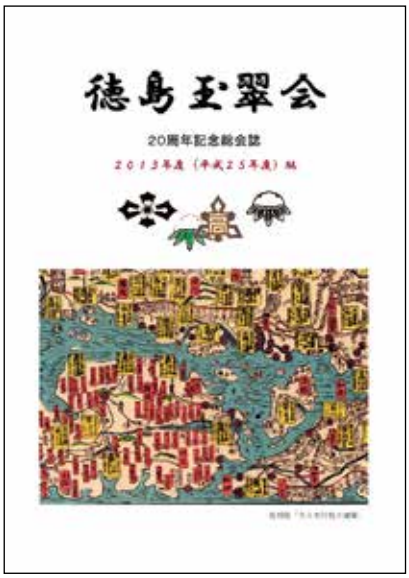
年度	総会誌のバックナンバー	特別講演の演者と演題		
		講演者（敬称略）	講演者の肩書（当時）	演題
平成21年（2009）	第16回総会誌	平田雅男	大塚国際美術館学芸室 室長	今だから話せる大塚国際美術館創設裏話
平成22年（2010）	第17回総会誌	石尾和仁	鳥居龍蔵記念博物館 専門学芸員	鳥居龍蔵と台湾
平成23年（2011）	第18回総会誌	吉田守美子	徳島大学大学院 生体情報内科学助教	糖尿病最前線～血糖値が 気になる人も、気にならない人も～
平成24年（2012）	発行せず	木村建彦	川島病院循環器科	高血圧、自分ではかる、 自分でなおす～ 家庭血圧測定のすすめ～
平成25年（2013）	第20回記念総会誌	20周年特別友情コンサート　ア・カンターレ髙松のコンサート		
平成26年（2014）	第21回総会誌	荒瀬友子	近藤内科病院 緩和ケア病棟長	徳島のホスピス緩和ケア について
平成27年（2015）	第22回総会誌	西良浩一	徳島大学医学部 運動機能外科教授	腰痛完治の最短プロセス ～確定診断への方程式～
平成28年（2016）	第23回総会誌	近藤和也	徳島大学医学部 保健学科教授	ここまで治せる、肺がんの診断 と治療
平成29年（2017）	第24回総会誌	中原大道	真宗興正派大乗寺 （高松市）住職	もう一つの視点で見てみると
平成30年（2018）	第25回総会誌	寺嶋吉保	日本尊厳死協会四国 支部理事とくしま代表	人生の最終段階の医療を考える
令和元年（2019）	第26回総会誌	佐藤哲也	高松高等学校玉翠会 副会長	こんなに違う！四国四県の酒 （と、四県の酒蔵の親父の性格）
令和2年（2020）	第27回総会誌	総会中止		
令和3年（2021）	第28回総会誌	総会中止		
令和4年（2022）	第29回会誌	総会中止	総会誌は発行せず、規模を縮小した会誌として発行	

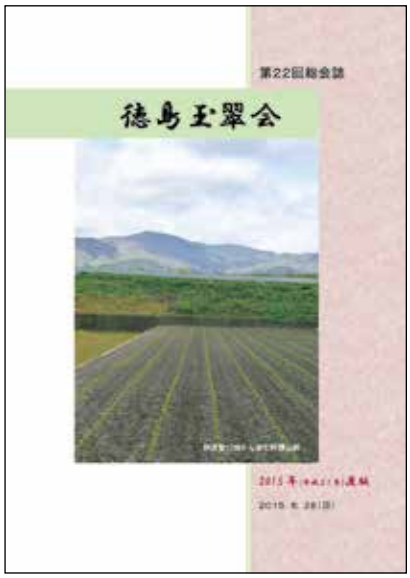
≪特集≫総会誌表紙と当時の思い出（第 16 回～第 28 回）

徳島玉翠会事務局編集担当　邉見 千香（昭和 49 年卒）









○20周年記念総会誌までの経緯

2013年に発行しました20周年記念総会誌（第19・20回合同）では、≪特集≫徳島玉翠会の20年史を掲載いたし、第1回～20回の総会、懇親会、総会誌の歩みを書きました。本誌裏表紙記載の公式）徳島玉翠会HP内メニューより入り、徳島玉翠会だより「徳島玉翠会20回までの歩み」にて詳細を閲覧できますので、ご参照ください。本会事務局編集の担当になりました折、第13回～15回の総会誌は自宅の家庭用プリンターで約500部を印刷しており、編集者とプリンターの限界を超えたため、第16回総会誌から印刷所にお願いいたしております。印刷所のご家族で高中昭和14年卒、松下和朋様には、戦時下無事卒業された様子を「田舎坊主　県都でビックリ行脚の一年間」と題した原稿を頂戴しました。（20周年記念総会誌P28）第16回総会時、長尾哲見様が太田前会長から引き継ぎ5代会長に就任され、総会誌も一新されたこともあり、今回第16回～28回総会誌の表紙とその当時の思い出を特集することにしました。第29回は縮小会誌のため表紙はありません。

○第16回～18回総会誌

第16回（2009年）の表紙写真は寺嶋吉保様（昭和48年卒）が撮影されたもの。郷里の小豆島で

購入された鉢植えを庭に移植後20年経て収穫した3kgの実を塩漬けされたとか。香川県関係者はオリーブの木と実だと即わかる表紙です。高高野球部は県秋季大会準優勝、うどん部の活躍もNHKに放映された年でした。

第17回（2010年）は、土岐孝先生の絵画「五剣山」です。東京美術学校（現東京芸大）デザイン科卒後、高高美術教師として昭和35年から44年まで勤務。専門のデザインの影響は、具象の油絵作品の構図にも現れております。香川県人知るところの五剣山は320年前の水害、地震で崩壊し現在の姿になりました。

第18回（2011年）の写真は牛川務様（昭和43年卒）が徳島県の三嶺登山時に撮影されたものです。自然破壊で池周辺の植物系が荒らされ嘆いておられます。雑木林と動物とヒトの共存を考えさせられました。ここまで送られた5年間の「会員だより」は編集者の支えでした。

○20周年誌～第22回総会誌

20回（2013年）の表紙は、「大日本行程大繪図」の復刻古地図です。銀座3丁目の所要を済ませ歌舞伎座方面に向かって並ぶビル街を歩くと、小さな洒落た窓から役者木版画や古文書が見え、店内に入って求めた古地図。20周年誌の寄稿者森順子様の「古文書雑記」に刺激され表紙に採用。阿波の国が栄えていた頃でしょうか。関西玉翠会樋口会長のご推察どおり、恐れ入りました。編集担当冥利に尽きます。混声合唱団ア・カンターレ高松の特別公演で、20周年に花を添えて頂きました。この年玉翠会も120周年で賑わい、本会から高高に温風暖房機を寄付させていただきました。

21回（2014年）、22回（2015年）は担当者撮影の写真です。21回の灰汁発酵建て藍染の筒描「千秋萬世」の文字には、本会の活動が永く続くことを願ってデザインしました。22回は、上板町藍師・新居修様の藍畑から阿讃山脈を望んだもの、故郷はありがたきかな。特別講演は、NHKプロフェッショナル仕事の流儀に出演された、徳島大学医学部整形外科西良浩一教授（昭和57年卒）でした。

○第23回、24回、26回～28回総会誌

第25回を除いて、上記5回分と今回の表紙絵画は、高高美術部OB/OG会「一期一絵」展に出品されておられた作品から掲載させていただきました(次頁表紙画)。谷本考司様（昭和50年卒）の絵画「サンポート高松」を第23回（2016年）の表紙に快諾いただき、Omg。今や高層ビルが立ち並んでおりますが、桟橋に立つと懐かしい景色が思い出されるそうです。この年は、「甲子園100周年大会」の企画として開催された第1回出場高校10校野球部OBによる試合も挙行され、高松高校元野球部で本会からは丸浦世造様（昭和51年卒）、中原大道様（平成6年卒）がご活躍されました。

第24回（2017年）も谷本様の絵画「ことでん高松築港駅」です。ホームに停車中1080形は京浜急行電鉄の1000形を改造投入とか。バランスのとれた配色と、レトロなフォルムが絵心を刺激するそうです。ゴミ箱の「ことちゃん」イルカは、存続危機時の「琴電はいるか？」から。

第26回（2019年）の絵画は、榎本鈴代様（昭和51年卒）の「栗林公園」です。大学のご友人を案内された時の秋雨の午後。心が和むやわらかい絵を描きたかったと。亡きお父様と行かれた公園内動物園やプールが閉鎖されたのが残念です。この年の特別講演は、玉翠会副会長佐藤哲也様（昭和54年卒）の「こんなに違う！四国四県の酒」と題し、懇親会で試飲させて頂いた23種のどれも美味しかったこと。来年は、母校創立130周年記念事業の委員長としてお世話になります。

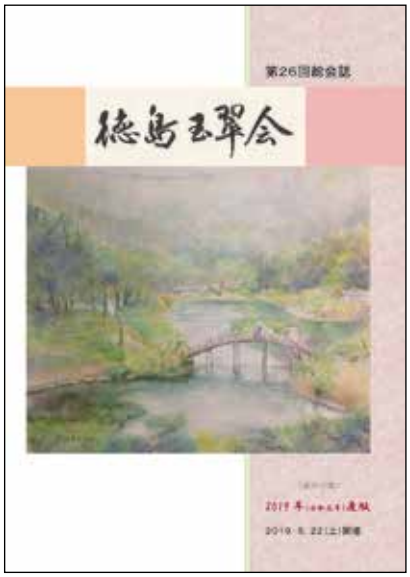
第27回（2020年）のパステル絵画は、「公渕公園にて」、平野郁子様（昭和51年卒）の作品です。つつじの花が色鮮やかな木漏れ日の5月、公園内を歩いた先の視界に広がった大きな池。新緑の山、初夏の花木。パステル画材は「ナルホド」で求められたとか。懐かしい店名。この年、母

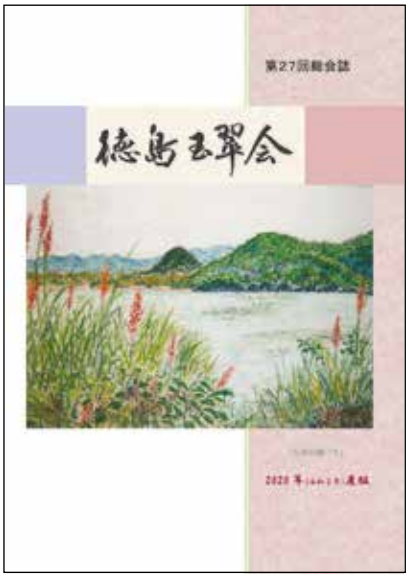
校へ移動式クーラーを玉翠会、他支部と共に寄付させていただきました。

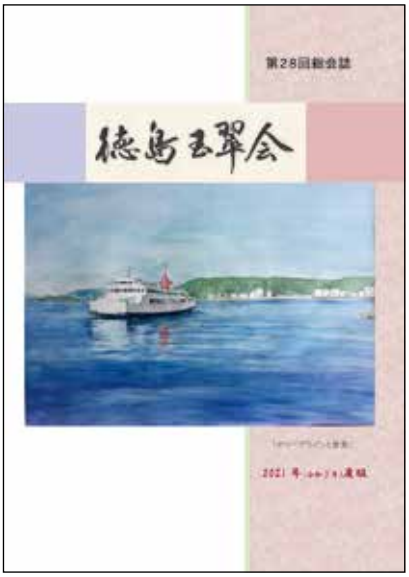
第28回（2021年）「オリーブラインと屋島」は前出、谷本様の絵画です。JR高松駅を出て、旅客ターミナルビルから桟橋へ向かうと海景色が広がり、出航する小豆島フェリーのオリーブラインを屋島も優しく見送っているようです。担当者も3年間お世話になった駅に帰りたくなりました。

○第25回（2018年）総会誌

「高松高等学校書道部」。毎日書道学会賞を受賞した、第6回うどん県書道パフォーマンス大会の写真です。ダイナミックに飛び跳ねる場面もあります。丸亀市在住の写真家河野竹克様のご好意により掲載しました。このご縁により、第25回以降の総会誌表紙には、書道部顧問山下俊文先生にお願いいたした題字を使わせていただいております。







玉翠会だより

東京玉翠会会長　渡辺 修（昭和 34 年卒）

徳島玉翠会におかれては、3年振りに会員の皆様が一堂に会して、創立30周年の記念総会を開催されますこと誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

今年は、母校高松高校も創立130周年を迎えます。歴代校長先生並びに玉翠会会長をはじめとする関係者の皆様のお力により、営々と築き上げて来られた伝統ある母校と力強い高松の存在あってこその我々であることは改めて申すまでもありません。

同時に、高松の直ぐ隣りで徳島玉翠会の皆様が30年を超える長きに亘り、高松をしっかり支え続けられたことは、誠に大なるものがあり、心より御礼を申し上げる次第です。「地方創生」が叫ばれる中で、過疎化、少子高齢化が進み、高松そして徳島の皆様の御苦労は並大抵のことではなかったことと拝察します。

いつだったか長尾会長から、徳島玉翠会の総会は参加人数も多くはないけれども、参加者全員による一言スピーチや特別講演、クイズ等少人数ならではの企画を楽しんでいますとのお話を伺い、心の通い合ったすばらしい会だなぁと感銘を受けたことを思い出します。

どうぞ皆様で創立30周年記念の総会を心ゆくまで満喫され、これからの更なる発展の活力とされますようお祈りしております。

本日は、本当におめでとうございました。

徳島玉翠会創立 30 周年　おめでとうございます

関西玉翠会会長　樋口 順一（昭和 34 年卒）

徳島玉翠会の皆様、創立30周年の記念総会を迎えられますこと、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

徳島玉翠会発足からの歩みを教えていただきたくて、徳島玉翠会20周年記念総会誌を読ませていただきました。表紙は「大日本行程大繪圖」でした。「表紙地図のはなし」の解説を読みますと、本文他ページに記載の「古文書雑記」と連係したかたちで箸述されています。「繪圖」には、文章で語られていないことが発見できる歴史資料として取り扱われる性質があります。

会誌編集者にお尋ねしたわけではありませんが、「大日本行程大繪圖」は、徳島玉翠会が創立以来、歩んでこられた歴史を象徴するものとして、20周年記念誌の表紙に相応しいなと感じた次第です。

20周年記念総会誌以降の各号には、高松高校美術部OB/OG会「一期一絵」の皆さんが寄稿された素晴らしい絵画の表紙が見受けられます。これを拝見しますと宇高連絡船で帰郷していた頃がなつかしく思いだされます。

また本文には、各方面で活躍されている会員や同窓生からの寄稿文があります。素晴らしい内容の文章に、多くの人達が元気付けられていると思います。

歴代の会長様のお言葉には、玉翠会が楽しいから輪に入りたい、世代を超えた交流の場になり、そして有意義な卒業後の人生の一コマ作りに役立つ会でありたい等がありました。

関西玉翠会は、母校の創立70周年を機に結成された玉翠会京阪神支部（会長：芦原義重氏Ｔ7年卒）に始まり、平成6年母校100周年時に関西玉翠会へと名称変更し現在に至っています。

本年の関西玉翠会は、『なんしょんな !? 220周年記念総会にきまい！

～KANGYOKU220　高高創立130周年　玉翠会京阪神支部結成60周年　関西玉翠会　30周年～』を総会テーマに平成4年卒の幹事団が、10月28日（土）リーガロイヤルホテル大阪での総会開催準備をしています。どうぞ徳島玉翠会の皆様もお越しください。

徳島玉翠会が益々発展されますよう心よりお祈り申し上げます。

徳島のこと

岡山玉翠会会長　多田 譲治（昭和 44 年卒）

本年、母校が創立130周年を迎える節目の年に、徳島玉翠会が設立30周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。これまで幾度か出席させていただき、ユニークな講演会を拝聴し、そして和やかに和気藹々とした懇親会も楽しく過ごさせていただきました。ただこの数年は新型コロナ禍のため対面での総会が開かれず、今回が4年ぶりの対面での総会とのこと、私も出席を楽しみに致しております。

2013年の第20回徳島玉翠会総会誌には、高松高校時代を含む私ごとを寄稿させていただきました。さらに2017年の総会誌には、徳島県内の私のお気に入りを独断と偏見で書かせていただきましたが、ここではまた、毎年のように梅→桜→巨木を訪れていますので、その後の様子をご披露させていただきます。今年2月26日には吉野川市美郷地区の梅見物、あちこちの満開の梅の花と香は素晴らしいのですが、残念ながら今年はまだ咲き始めでした。4月1日には神山町の枝垂れ桜、4月29日には東みよし町の「加茂の大クス」、そして6月19日には故郷香川県の屋島山上「やしまーる」へ。神山町では町内に入るや否やあちこちに立派な枝垂れ桜が目に入り、数年前初めて訪れた「ゆうかの里」は圧巻でしたが、最近では幾種もの枝垂れ桜が鑑賞できるホテル四季の里近くの「農村ふれあい公園」に出かけています。今年は満開の時期をやや過ぎていたのですが、持参した簡易湯沸かし器で湯を沸かし抹茶をいただきながらの花見はなかなか乙なものでした。「加茂の大クス」ではその均整のとれた枝ぶりを眺めながら、近くのベンチでのんびりすると心身ともにリフレッシュでき、ツバメが飛び交う時期が最高です。それから、つるぎ町の半田そうめんの買い出し、鳴門市のハスの花・・・。香川に帰れば、昨年夏にオープンした「やしまーる」からの眺めは、天気さえ良ければ最高です。

ところで、岡山玉翠会は昭和54年（1979年）秋に東京・関西玉翠会に続いて全国で三番目の支部として創立されました。岡山県は瀬戸内海を挟んでの香川県の対岸ですから、母校からは相当数の方々が岡山の地に来られていると思われます。残念ながら会員数はそう伸びていませんが、少しずつは新しい会員の方々の出席もある総会となっており、規模は徳島とほぼ同じくらいです。貴会での特別講演企画を参考にさせていただき、岡山でも会員によるミニ講演会を取り入れていますが、やや堅い話が多かった気もします。いかに多くの会員の方々に出席していただくかは悩みの種ですが、岡山県内だけでなく中国地方のどこからでも出席いただけるような工夫も必要かなと思っています。今年の岡山玉翠会総会・懇親会は11月19日（日）、アークホテル岡山での開催を予定しており、徳島からも是非ともご参加いただければ幸いです。最後になりましたが、徳島玉翠会の益々のご発展、会員の皆さまのご健勝・ご多幸を祈念致しております。

徳島玉翠会設立 30 周年に寄せて

東海玉翠会会長　入倉 憲二（昭和 44 年卒）

徳島玉翠会設立30周年まことにおめでとうございます。30年にわたり会を運営・継続してこられた役員ならびに会員の皆様に深く敬意を表します。

今年は4年振りに対面での総会を開催されると伺い、大変嬉しく存じます。この3年間は、コロナ禍により総会中止やオンライン開催を余儀なくされ、各支部とも歯痒い思いをしてきました。4年振りの貴会総会の盛会を祈念申し上げます。

東海玉翠会も2020年から2022年までの3年間はコロナ禍によりやむなく中止となりましたが、今年は、感染者の減少や感染症分類5類への変更ということもあり、リスク低減を図りながら4年振りに開催することができました。ご来賓として、中筋校長、間島玉翠会会長ならびに貴会・長尾会長を始めとした各支部の役員にご出席いただきました。4年振りということもあって皆さん話が弾み、楽しんでいただけたようです。コロナ禍において、仕事でもプライベートでもオンライン会合が普及しましたが、やはり懇親を図る場としてはオンラインではなく対面での会が大切で有効だと感じさせられました。

若い新たな会員の入会が無く、会員の減少と高齢化という小規模支部ならではの悩みはありますが、これからも、会員相互の親睦を深められる会を目指して、地道に活動を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、徳島玉翠会会員の皆様のますますのご活躍と徳島玉翠会の更なるご発展を心から祈念申し上げます。

徳島の皆様、来年の８月１０日、８月１０日をよろしくお願いいたします

玉翠会副会長　佐藤 哲也（昭和 54 年卒）
香川県立高松高等学校玉翠会　創立 130 周年記念事業実行委員会　委員長

いつもお世話になっております。玉翠会高松高校130周年記念式典実行委員会の委員長の佐藤です。実行委員長と偉そうに申しましても、今回においての私の実際のお役目は①「スポークスマンの代わり」と②「なにかあった場合に土下座して謝ってまわる担当者」であります。ですので、本当に私が何かやらかした場合はよろしくご勘弁をお願いいたします（笑）。こんないいかげんな委員長に代わって、実際に企画し運営してくれているのはこれからの玉翠会を背負って立つことになる還暦以下の若手（と玉翠会では呼びます）の頼もしい後輩連であります。むしろ彼らの方をどうぞよろしくお願いいたします。

また、早速、謝罪できる特権（？）を活かしていの一番に謝っておきますが、「ようやくのコロナ明け」とは言え社会にまだ影響の残りそうな今年は敢えて避けて、母校としては本年が130周年に当たりますが、同窓会主催の式典や事業自体は1年遅れの来年の実施に決定いたしました。おっかなびっくりで中途半端にやるよりも、皆様には完全燃焼してほしいという判断であります。セレモニーならいざ知らず、「お祭りは別に一年遅れでも誰もなんにも困らない。」と、勝手に決めさせて頂きました。誠に申し訳ありません。

これまで地元在住の先輩方の尽力で過去10年ごとに周年祝賀の式典や事業を開催していただいて参りましたが、時代も更に進み、やたら厚くて重たかった記念誌の電子化、ネット化を初めとして、今回もバージョンアップをしていく予定です。昔から私が玉翠会活動で普段から感じているタカコー生の「あるある性癖」として、「やたら理屈が多くてエンジン始動に時間や手間がかかるが、動き出したら燃料切れてもとことん走る。」というのがあります（笑）。今回も例に漏れず、一部（全部かもわかりません）暴走に気をつけて、120周年の事業よりさらに発展改革していくことを、その昔120周年の現場担当であった私としても願っております。また、その動きに関しましても徳島玉翠会の若手の皆さんも香川の同期や後輩連とぜひとも一緒になってお知恵とお力とをお貸し願えればと思います。若い皆で力を合わせましょう。

ご存じの様に徳島市と高松市の間は特急『うずしお』でも高速道路でも1時間少しの距離であります。東京駅から通勤圏内の八王子、横浜、津田沼や大宮くらいまでと同じです。盆暮れや日常も何かがあればしょっちゅう行き来をしておられること思いますが、来年の8月10日だけは高校時代の同級生や先輩後輩、懐かしい先生や記憶に埋もれていた校舎との顔合わせを楽しみにお帰りください。私たちお迎え側も出来るだけのことを力一杯させて頂きますので、ご希望ご要望があればご遠慮なくお申し付けください。

無理を言って字数を頂きましたのにとりとめの無い文章になりました。さて最後にようやく、ここからは真面目なご挨拶です。我々の母校は本年に無事130周年となりました。ここまでの永きに渡って母校高松高等学校の素晴らしいオーソリティーを培い保てておりますことは、創立から現在に渡るまでのすべての卒業生の先輩皆様方の卒業後の一生を通じての努力と研鑽のおかげであると強く感じております。周年事業で過去の歴史を紐解くにつれてあらためて深く感謝いたしております。この志はこれからの後輩達にも末永く繋いでいきたいと思っております。周年式典の目的はここに厳かにあるものとお考えください。そして皆さんで思いっきり楽しんで頂ければ本望です。

それでは、来年の8月10日、8月10日を、どうかよろしくお願いいたします。

高松高校美術部 OB ／ OG 展「一期一絵」

「一期一絵」代表　谷本 考司（昭和 50 年卒）

2022年11月、高松高校元美術部の有志によるグループ展「一期一絵」が高松市美術館にて開催されました。

2010年から4年毎に開催し今回は4回目、油絵、水彩画、日本画、版画など多種多彩の作品38点を展示、800人を超える方々に来て頂き、多くの方々より好評を頂きました。

「一期一絵」は、1970年代に高松高校美術部に所属していた有志20数名によるグループ展です。毎回10月末から11月初旬の6日間、高松市美術館市民ギャラリー（第一回目のみヨンデンプラザ高松）にて開催しています。開催期間中はメンバー、作品、来場者との一期一会を大切に再会を楽しみ交流を深めています。

第5回は来年2024年11月に開催予定です。メンバーの多くの方が定年退職を迎え、所謂シニア世代に入っています。新たな生活の中でクリエイティブな活動に費やす時間が増えて出展も増えるのではないかと期待しています。次回も四国新聞の木曜倶楽部に掲載して頂けるかと思います。日程等ご確認の上、多くの方にご高覧頂ければ幸いです。

表紙（高松城・艮櫓と琴電1200形）

高松琴平電気鉄道（通称ことでん）の築港駅から、線路沿いを約10分ほど歩くと見えてくるのが艮櫓（うしとらやぐら）です。艮櫓は1677年に東ノ丸の北東の隅櫓として建てられたものです。北東の方角のことを丑寅（艮）ということから名づけられました。

1965年当時の所有者であった日本国有鉄道より高松市が譲渡を受け、1967年に東ノ丸北東隅から現在の旧太鼓櫓（たいこやぐら）跡に移築されました。

三層三階、大型の千鳥破風（ちどりはふ）とせり出した石落としが特徴の櫓です。1947年に国の重要文化財に指定されています。小さいながらも調和のとれた美しい櫓です。

艮櫓のすぐ南側のお堀沿いに「ことでん」の線路が東西に延びています。絵に描いた電車は、高松琴平電気鉄道1200形電車で、京浜急行700形を改造し2000年過ぎから琴平線と長尾線で運用されている四国初の4扉車両です。

松並木、櫓、石垣、お堀の前を金刀比羅宮のシンボルカラーの黄色いことでん電車が走る風景に「the 高松」を感じる人も多いのではないでしょうか。

「第4回一期一絵」案内状

「第4回一期一絵」の案内状の写真は因幡船岡駅（いなばふなおかえき）の木造の駅舎です。

因幡船岡駅は、鳥取県八頭郡（やずぐん）八頭町船岡字上向田にある若桜（わかさ）鉄道若桜線の駅です。1930年、鉄道省若桜線の郡家駅～隼駅間開通の際に開業した駅で国の登録有形文化財に指定されています。一日の平均乗降者数が数十人の静かな駅舎です。

駅待合室の窓から柔らかな光が注ぎ込み、床と木製のベンチを照らし長い影を生み出す空間は、レトロでエモい雰囲気を感じます。

どことなく高松高校の旧校舎を思い出させてくれる情景です。

第４回作品展　案内状

第４回作品展　高松市美術館市民ギャラリー

第４回作品展　高松市美術館看板

変わる街並み。でも…

徳島玉翠会幹事　加藤 弘道（昭和 58 年卒）

母校のある高松市までは、徳島市から車や鉄道で1時間程度。行こうと思えばいつでも行けるのですが、なかなかその機会がないんですね。と言うのも小・中・高と高松で過ごしたものの、親の転勤でたまたま住んでいたので親類縁者もおらず、自ずと足も遠のいてしまうというものです。

仕事の関係で高松駅前には時々行くので、「駅舎が変わった」（昔は築港と呼んでいたかな）、「近鉄ビルがなくなった」「クレメントができた」とかは知ってはいるものの、「じゃあ実際に住んでいたあたりはどうなった？」、ということで思い立ったら吉日、親孝行も兼ね、年老いた親を車に乗せ、思い出探しの旅に出掛けてみました。

12年間住んでいたのは朝日町。車窓から町並みを見ていると、「船の体育館はまだあるではないか！」「武道館も残っている」、しかし自宅であった国鉄の官舎はどこにもなく跡地にはスーパーマーケットらしきものが…。

目の前には「香川県立中央病院」と書かれた立派な建物が屹立。昔、よく凧揚げをやっていた何にもなかった埋め立て地（朝日新町）も企業や倉庫が建ち並び、親からも「あれまあ」の一言。

通っていた新塩屋町小学校（＊H22年に松島小、築地小との統合により閉校）を探してみたものの、記憶が曖昧で場所を特定できず、玉藻公園横の城内中学校（＊H21年に光洋中との統合により閉校）は何故か更地のまま。

「ここの運動場は狭かったなあ」とか「体育館は2階建てで1階はプールだったかな」、「卓球部はプールサイドが練習場でプールに落ちるやつもいたな」とか、どうでもいいことを思い出しながら、相変わらずの賑わいを見せている商店街も散策してみました。

片原町、丸亀町あたりは中学校区だったので、当時は同級生の店も結構ありましたが、やはりというか時代というか「同級生の店舗は全く見当たらない！」。唯一、荒木君の「かまど」だけは昔と変わらず同じ場所にありました。

下校中によく立ち読みで時間を潰していた「宮脇書店本店」や、高くてなかなか服を買えなかった「GINCHO」もそのままで、高高の近くにあったうどんの「さか枝」が南新町に店を出しているなど新たな発見もしつつ、「まあ、高松を離れて40年、構造物としての街並みが変わっていくのは当たり前の事だよなあ」と改めて実感しました。

時間の流れの中に身を置いている以上は、新たに見聞きしたり体験したことも次の瞬間には記憶や思い出と化してしまいます。そしてそれは時間の経過とともにカラーであったものがモノクロになり、あちこちが欠落し、次々に重なってくる新たな記憶によって意識の下へ下へと押し込められていきます。

それでもずっと残っている根雪のような思い出が、ふとしたことで浮かび上がってくるんですね。それはどういう時か？

そう、それは昔に体験した場所に身を置くこと。

人が変わり、街並みが変わり、昔と同じ空間とは到底言えない場所でも、リアルに佇んでいると、記憶の断片が次々と現れて花開いていく不思議な感覚にとらわれます。

地図画像アプリを使えば、居ながらにして高松はおろか世界中を見て回ることができます。これを否定するつもりもありませんし、便利で重宝しているのも事実です。

しかし、実際の生身での体感は、「時空を超えて」と言えば大げさですが、記憶を蓄える脳へ

の刺激量という点においては、パソコンやスマホ画面からの情報などとは到底比較できるものではありません。

思えば、住民票を置いた所も、愛媛、香川、広島、大阪、徳島と瀬戸内沿岸5府県にまたがり、引っ越しも10回は超えている私。自分の故郷と呼べるところは果たしてどこなのかも定かではありません。

でも、多感な成長期を高松で過ごしていたことは事実であり、浮かび上がる昔の思い出とともに、そのことを再認識した今回の小旅行でした。

（追記）

＊の状況は帰宅してから調べたものです。

上記のとおり通っていた小学校、中学校は閉校し、大学(県外)も都市の中心部から郊外に移転したため、私の学び舎として当時の場所に現存しているのは、校舎新築にはなりましたが高高のみです。人口や環境の変化とともに教育機関も変遷するのは当然ですが、願わくば高高は不動であって欲しいものです。

実家じまいに思うこと

徳島玉翠会会員　岡本 一磨（昭和 50 年卒）

昨今、全国的な空き家の増加がクローズアップされているようです。高松市郊外にある私の実家も、両親が他界してからは住み継ぐ者がなく空き家状態です。仕事が週休三日となった今、毎週その休日の一日をいわゆる「実家じまい」に当て、自宅から車で1時間半ほどの実家に数時間ほど立ち寄り風を通し、少しずつ室内外の片付けを続けています。

実家に残された物には私が生まれる前からの歴史が刻まれた物もあり、それぞれに物語があるのだとあらためて気づかされます。記憶の中にあるシーンにつながるものを手に取れば、どうしても往時にタイムスリップしてしまうもので、片付けを始めたころは、そこで何度も手が止まってしまいました。

そうした思い出に立ち止まり続けるわけにもゆかず、自らの気持ちの中で思いを収束させ、未練を残さず、そしてなにより両親の遺志のとおり、衣類、食器類、書籍類、電化製品、調度品、雑貨類などや、何度も見返した古いアルバムも含めて、ほとんど全てを淡々と処分しています。

ただ、淡々と・・・とはいいながら、片付けを始めてすでに2年余りが経過するいかにもスローペースです。それには手際の悪さもありますが、もうひとつの理由があります。ふと「この片付けの手間を楽しみ、慈しみながら、このままずっと続けていたい」と思うときがあるからなのです。

実は私たち家族3人がそれまでの狭い社宅住まいから新築の実家に移り暮らし始めてわずか1年あまりで私は高松高校を卒業し県外の大学へ進学したため、実家を離れての下宿生活となりました。大学院修了後は徳島で就職、その年に結婚し、そのまま実家に戻ることなく徳島で居を構えての暮らしです。

当初実家で暮らした1年余りもほとんど受験勉強三昧で、この家での家族団らんの時間はあまり持てず、大学在学中も、社会人となってからも、実家へ顔を出すのはたまの帰省だけでした。早く親離れしたといえばそれまでですが、両親にはずいぶんと寂しい思いをさせたにちがいありません。

生まれてから親元を離れるまで、慎ましやかな暮らしの中でいつも温かく育て、見守ってくれた両親であり、親元を離れてからも、たまに実家へ帰省すればかつての家族団らんのような、心のよりどころとなる時間を過ごさせてくれた両親です。ただただ感謝しかありません。片付けが進み、がらんとなりつつある実家でも、庭で草木の手入れをしている父親や、キッチンで料理を作る母親の気配は色褪せないものです。そんな両親を、なんとか介護しながら見送りましたが、孝行らしい孝行はあまりできなかったと、今も自責の念に駆られることがあります。

このままずっと片付けを続けていたいという思いは、長く暮らすことのできなかった実家に、皮肉にも今実家をたたむために頻繁に足を運びながら、できるものならこれまでの人生で抜け落ちた暮らしを、時の流れを超えて埋め合わせ、あらためて両親への感謝を届けたい思いとつながっているのかもしれません。

そんな思いを巡らせながらも、片付けの現状に目をやり、先に進めなければなりません。まだまだ大型家具類や外回りの整理もありますが、個人での処分はそろそろ限界になりつつあります。「再建築不可物件（※）」である築50年近い建屋と土地の処分も悩ましいところです。エンドレスとならぬよう、いずれは専門業者へ依頼し、実家じまいとするつもりです。

※再建築不可物件

幅員4m以上の道路に2m以上接していない敷地の物件で、現存する家屋のリフォームはできるが、現存する家屋を取り壊して新たな家屋を建てることはできない物件。

天寿を目指す逝き方
健康寿命・長寿より幸福寿命・天寿で生き逝く

徳島玉翠会監事　寺嶋 吉保（昭和 48 年卒）
阿南医療センター 緩和ケア内科

私も高齢者の範疇に入って5年目になり、記憶力低下はもちろん、文章を手早く書けなくなり、体力低下も筋力よりバランス感が低下した。オナラを我慢することができなくなっている。歯科医の姪に「おじさん、唾液誤嚥しているでしょう」と数年前に指摘されたが、毎月通う歯科での口腔ケアの最中に咽せることが増えた。体力維持や誤嚥予防の体操も気になっている。健康寿命の延伸は、今朝受診した歯科クリニックでも広報されていた、フレイル予防・認知症予防・介護予防など○○予防が提唱されている。

2010年から緩和ケアの専従医師となったが、以前の壮年期のがん末期の方をケアするイメージから、今は高齢～超高齢でがん以外の病気を多数持っておる方が圧倒的に増えている。

患者さんの中で上手に老いて病気と上手く付き合って生きて逝く人と、そうは逝けない方がいる。特にご自分の老いを認めず深刻な病気も無視して生きようとすることで、ご自身にとっても周囲から見ても良い晩年とは思えない逝き方もあった。

このモヤモヤする中、「健康」や「長寿」を尊ぶより、「天寿」を目指す方が良いという講演を聞いて、腹落ちした。人はいずれ必ず死ぬ。医学医療で100％保証できることは少ないが、これは100％正しい。多くの場合、老いて病んで何らかの介護医療が必要な時期を経て、死を迎える。まさに生老病死である。

長年大変な病気や障害と向き合って良い人生を歩んでいるなあと思う方もいるので、健康である＝幸福な人生ではない。何が何でも「健康第一」と考え「長寿」を目標とすると、老いて病んで死ぬことはできれば避けたい事、先延ばししたいマイナス状態であり、生老病死を自然なこととしてポジティブに受け入れ難くなる気がする。100歳まで元気で過ごせた稀な幸運の持ち主も、長寿を目標とすると105歳まで健康で過ごしたいと目標は無限に先延ばしされるかも知れない。不幸な状態ではないか？

天寿を目指すと良いという講演を聴いて、モヤモヤが腑に落ちた。

天寿：天（神様？運命？）から与えられた寿命の中で、天から与えられた使命（天命）を果たして迎える最期というイメージを私は持った。その最期は、自分も周囲も納得感が持てているだろう。自分の老・病・死も自然な事として受け入れて、「自分はここまで、あとはよろしく」とやり越したことは次の世代にバトンタッチしていけるだろう。

昨年、「幸福寿命」という考え方を聴いて、豊田市HPで確認した。「平均寿命」―「健康寿命」＝「健康でない介護を受ける期間」が10年前後ある。この期間を快適な介護を受けることができれば、全生涯を幸福な期間（幸福寿命＝健康寿命＋快適期間）とできる。残り何年この地域に貢献できるか分からないが、阿南市在宅医療介護連携事業と協働して、多くの市民の生涯が幸福寿命になるよう努めたいと思っている。

この歳になってのめり込んだこと

徳島玉翠会幹事　丸浦 世造　（昭和 51 年卒）

「え～っ それ私がやるのぉ～？」という驚きや困惑が日常茶飯事となってしまいました。
今回、「近況報告を書け」との指令を受け、それでは、いい機会だからこんなことをつらつらと書いてみようかと思います。

高松高校を卒業してから、大学（東京）、サラリーマン（横浜、新潟）を経て、35年前（30歳のとき）に地元徳島池田町に帰り、家業に専念してまいりました。その間は、人間関係の幅を広げるためにも、とにかくいろんな会合に出席することが私の目標・役目と定め、各種業界や団体、また小・中・高（＋補修科）・大学（＋社会人コース）の同窓会にも頻繁に参加しておりました。もちろん仕事もそれなりに熱心に従事したつもりであります。

転機は、青年会議所へ入会し最初の７~8年間は普通に過ごしましたが、理事長、ブロック会長を受けた2年間は激務で、前後の予定も詰まっていたので、ハワイの大会にも1泊3日で参加したこともありました。次に、業界の青年会議の役を受け持った時も、第1回の全国大会の事務局長を仰せつかり、国交省本省との協議のために東京に年間60日も張り付いたこともあります。ある主管する会議が終わり「やれやれ終わった」ということで、報告に行ったときに「次は全国大会をやれ・・」と仰せつかり「え～、ほんとにやるの～」という感じでスタートしたことを覚えております。

次は、地元の商工会議所の会頭の話が来たのですが、「まっ　半分は名誉職だし・・」と思っていたのですが、折からの「人口減少による地域活力の低下」に歯止めをかけるという時代に差し掛かり、様々な取り組みをすることとなりました。その取り組みの中のひとつに「賑わいづくり」という重要なものがあり、いろんなことをおこないましたが、地元で「四国酒まつり」というイベントがあったのですが、それをどんどん拡大していきました。第20回大会には、酒場放浪記の吉田　類さんをお招きしトークショーをおこない街中で2万人の人出をいただきました。次回は2024年2月ですので皆様のお越しを心からお待ちしております。

その次には、「地方創生」に真正面から取り組むために、行政事業の受け皿として地域再生推進法人となるまちづくり会社を設立することになりました。これも「これ、私がやらんとダメかなぁ」くらいの気持ちで2017年12月にスタートしたのですが、事業費は補助金等があるのですが、運営活動費がないためにすべてにおいて自分がやらないと前に進まないというものでした。それからというものは、仕事もしなければならないので、1年360日くらいゴソゴソとおこなう日々が続きました。おかげで、これまでに参加したいろんな会合もほとんど欠席となっており、広告の原稿も邉見さんよりたびたび催促を受けつつ2019年だったと思いますが全出席だった徳島玉翠会の総会も欠席することになってしまいました。

その団体でやっていることは

①地域交流拠点施設の運営

②同上内の飲食店「ミンデキッチン」の運営

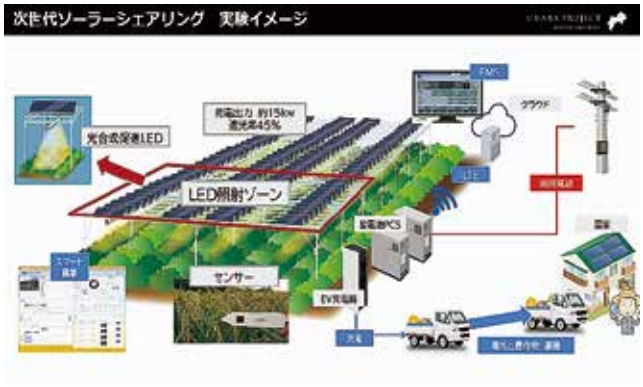
③空き家再生活用

④移住者や若者の呼び込みと相談受付

⑤魅力ある仕事づくり

等々でありますが、当然のことながら「逆転ホームラン」とまでは至っていないのが実情ですが、多少なりとも寄与しているとは自負しております。その中で、2年前に若者（香川大学生）の提案により山の中腹の旧小学校の「廃校活用（ウマバ・スクールコテージ）」をすることになり、大・中・小の研修・会議室や部屋や合宿や厨房・食堂、また40人が泊まれるようにベッドや和室を補助金を活用して改修しました。ここに、中四国や関西からの学生さんがサークルやゼミ合宿にきてくれるので、差し入れをもって訪問するのが楽しみです。また、折からのワーケーションブームもあり、企業の研修にも使ってくれるようになり、ここにはお酒を差し入れ、運が良ければ雲海の見えるテラスで一緒に大宴会をしたりしております。

更には、全国各地（東京、京都、、名古屋等）の企業さんが「脱炭素に関わる取り組み」を実証実験しようということになり、今般、「中山間地におけるエネルギーの効率的かつ有効活用」について、ソーラーシェアリングとして再生可能エネルギーの発電と農業の両立を図る実験や、再生可能エネルギーを地域のイベントや災害時にも活用する実験をおこなうことになりました。



私も、高校を卒業して40年近くなり、コロナワクチンの案内も周りの人より早く届く歳となりましたが、こんなことを繰りかえしながら毎日をドタバタ過ごしております。最近では、「地方創生」は地域にとって非常な取り組みであり、この歳になって「のめり込めること」と出会えたことは幸せなことであると考えるようにしております。

徳島玉翠会 会則

第１章　総　則

（名称）
第１条　本会は徳島玉翠会と称する。
（目的）
第２条　本会は、会員の相互の連絡と親睦を図る。
２　本会は玉翠会の徳島地区における支部として、本部のもとに母校の発展を期する。
（事業）
第３条 本会は前条の目的を達する為に次の事業を行う。
一　会員相互および母校の発展に寄与する。
二　親睦を図る為に総会などを開催し、会報や会員名簿を発行する。
三　その他の必要と認められる事業。
（事務局）
第４条 本会の事務局を徳島県内に置く。

第２章 会　員

（会員）
第５条　本会の会員は、次の資格の一つを備える者とする。
一　徳島県に在住し、香川県立高松中学校、同高松高等女学校、同旧高松高等学校、同旧高松女子高等学校および同高松高等学校（以上5校を「母校」という。）の卒業生（これに準ずる者を含む。以下「通常会員」という。）
二　その他、本会の役員会が入会を認める者（以下「特別会員」という。）
（部会の設置）
第６条　第3条の事業を行うため部会を設置する事ができる。
２　部会の運営は所属会員の協議による。
（会費）
第７条　会員は年会費を納めることとする。
２　前項の会費の額は、役員会で定める。

第３章 役　員

（役員）
第８条　本会に次の役員を置く。
一　会　長　1名
二　副会長　4名
三　役員として、事務局長1名、会計1名、監事1名、幹事若干名、その他会長が必要と認めたものを置く。
２　本会に、役員の協議を経て名誉会長、名誉会員、顧問を置く事ができる。
（役員の選出）
第９条　役員の選出は次のとおりとする。
一　会長及び副会長は、役員会の推薦に基づき総会で決定する。
二　その他役員は会長が推薦して役員会で決定する。
（任期）
第10条　会長及び副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
２　役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
（役員の職務）
第11条　役員の職務は次のとおりとする。
一　会長は本会を代表し、会務を統率する。
二　副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は会長の職務を代行する。
三　事務局長は、会長の指示に従い会務を遂行する。
四　会計は、会務に必要な収支を管理し総会で報告する。
五　監事は本会の会計を監査する。

第４章 会　議

（総会）
第12条　総会は会長の招集により、毎年1回開催する。
２　総会においては次の行事を行う。
一　本会の運営に関する協議決定と会務及び会計報告
二　会員の親睦を図る行事
三　その他、必要な事業
（役員会）
第13条　役員会は会長の招集により、適当な時期に開催する。
（議決）
第14条　総会及び役員会の議決は、出席者の過半数をもってこれを行う。議長は会長が行い、副会長が代行することができる。可否同数の場合は議長の決するところによる。
（会計）
第15条　本会の会計は、年会費および寄付金その他の収入による。
（会計年度）
第16条　本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月末に終わる。

第５章　会則の改正

第17条　この会則の改正は、役員会の議を経て総会で決定する。

第６章　細則

第18条　この規則施行に関し、必要な細則は役員会の議を経て別に定める。

付則

（会則の最終改正）この改正規則は、平成21年1月10日から施行する。

編集後記

高松高校創立130周年記念誠におめでとうございます。令和2年から4年までの3年間、コロナ禍で開催を見送りました本会総会も30周年を迎え今年は関係者皆様とお祝いできますこと感無量です。第13回から事務局編集を担当いたし、20周年の懇親会のことは覚えております。特別公演に手弁当で出演くださり、コンサート本番さながらのプログラムを聴かせていただきました混声合唱団ア・カンターレ高松のハーモニーの懐かしかったこと。ご来賓の東京玉翠会池上先輩に、真摯で熱く、若々しいパワーある本会だとエールをいただいたことも、今日までの活動に繋がっております。今回は特別な企画はいたしておりませんが、本会特徴の「出席者全員1分間スピーチ」を楽しみに、編集作業を終えました。30周年記念総会誌を発行するにあたり、ご寄稿頂きました玉翠会本部、支部会長様、高高校長先生、130周年式典委員長様、一期一絵代表様、本会会員様、松下印刷様に心より深く感謝申し上げます。9月23日30周年記念総会懇親会でお会いしましょう。

徳島玉翠会事務局編集担当　邊見 千香（昭和 49 年卒）